発行　平成３０年２月
研究レポート No.879　岩手県農業研究センター

インタープランティングを利用したトマトの高収益周年栽培

【１　成果の概要】

(1) 作型は、１作目は３月上旬定植７月末栽培終了の短期どり（７段）、２作目は７月上旬定植１月末栽培終了の中期どり（14 段）を組み合わせた作型です（図１）。
(2) ２作目は１作目の栽培期間中に定植するインタープランティングを用います（図１、２）。
(3) つる下ろし作業は１作目には行わず、２作目の９月に１回行うだけで、授粉もクロマルハナバチを用いるため省力的です（図１）。
(4) 商品果収量は１作目 12.0t/10a 、２作目 16.0t/10a 以上が得られます（表１）。
(5) 家族経営規模（基幹従事者２名＋臨時雇用２名）を想定した場合、30a 規模まで拡大可能で、このときの粗収益は 2,800 万円、利益は 622 万円になります（表２）。

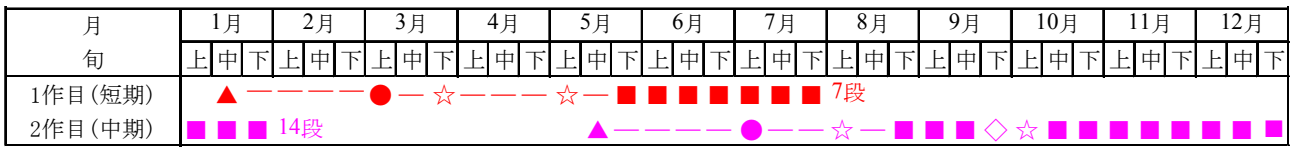

図１　インタープランティングを使用したトマトの短期どり中期どりを組み合わせた周年栽培作型

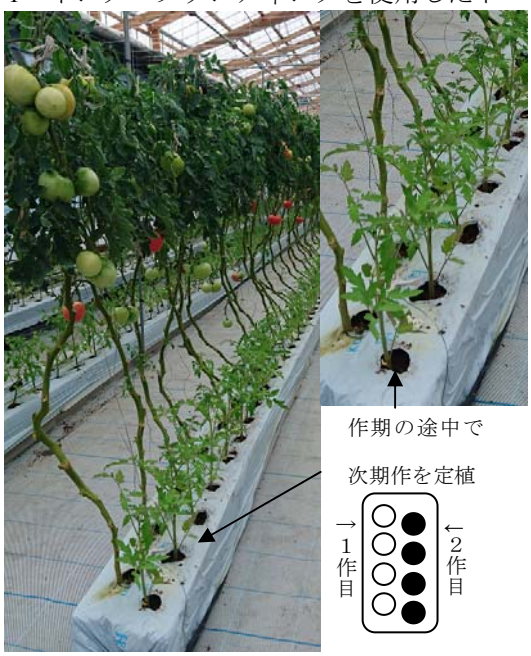

図２　２作目インタープランティング直後の様子および定植位置の模式図

表1 H29年度10aあたりの作別収量実績

	総収量 (t/10a)	商品果* (t/10a)
1作目	14.9	12.0
2作目	18.4	16.0
合計	33.3	28.0
慣行	12.0	

*80g以上　規格外除

表2　30a規模収益性

1 粗収益	(千円)	28,005
収量*	(kg)	72,741
販売単価	(円/kg)	385
2 経営費合計	(千円)	21,782
変動費		12,473
うち労働費（雇用）		590
固定費（減価償却費）		9,309
3 所得	(千円)	6,223
4 労働時間	(時間)	5,122
うち雇用		796

* 24t/10aで計算

【2　留意事項】

(1) この栽培による労働時間は、誘引棚高 2.7m の高軒高ハウスでの作業を想定しており、パイプハウスでも栽培可能ですが、つる下ろし等の作業が増加する等留意が必要です。
(2) 栽培は複合環境制御条件下で行っています。
(3) 固定費（減価償却費）は木骨ハウス、育苗ハウス、温風暖房機、炭酸ガス施用装置および複合環境制御装置等を含みます。
(4) 販売単価は、実証圃から収穫した生産物を、市場出荷、産直、個人販売した実績値を用いています。
(5) インタープランティングによる年間 2 作栽培において、2 作目が 1 作目と重複する期間の農薬使用は両作の使用実績となります（それぞれの作毎のカウントです）。

担当研究室　技術部　南部園芸研究室
〒029-2206　岩手県陸前高田市米崎町字川崎 238-4　TEL. 0192-55-3733　FAX. 0192-55-2093